



## 追悼 故今堀誠二 名誉教授

中国近現代史の研究者、平和・原水禁運動家、広島大学総合科学部創設・初代学部長。この三つが今堀先生の顔である。どれをとってみても非凡なる精神と強靱なる意志の持主でなくては成就できるものではない。この世の巨星を失ったことはまさに世界的損失であり残念の極みである。

中国史研究者としての史実資料収集における命がけの努力はよく知られたことである。集められた資料は農村の石碑の拓本であったり、古老の思い出話であったり、その時々々の権力者によって書かれた公文書ではなく、民衆の生の声を発掘されたことが重要な点である。第二部の「中国封建社会の構造」で学士院賞を受賞された。中国封建社会の三部作執筆中の病床における死闘の御姿は涙なくしては語れない。

御自身自身が原爆投下後の救援活動で被爆しておられながら、このことは語られず、被爆者としてではなく原爆の実態を訴え続けてこられた。平和・原水爆禁止に関する国内国外の大会には必ず出席し重要な働きをなされた。しかし原水協・原水禁の分裂など政党色が強くなつてからは、一市民としての活動に専念された。平和運動は忍耐であるとの今堀イズムの美学をかいまみる気がする。また、学園紛争の時から日本の大学教育の欠点を見極め、二十年時代を先取りした改革を具体的に成し遂げられた。戦後、日本の学校制度が作られて以来の最大の変化ともいえる教養部を廃し、四年一貫学際教育を目指すユニークな総合科学部創設の大事業を成し遂げられた。初代学部長として学内の多くの教官を敵に廻し、理想に燃える教官・事務官と共に、修士課程のみとはいえ一学部の上に地域研究研究科と環境科学研究科を設置するため奮闘されたことは今も語り草になつている。

病気が重くなられてからも、ベッドに起き上がりられ、又は横になられたままの御姿でいつも語られたことは中国史研究の執筆のこと、世界平和の実現、日本の大学教育改革の理想についてであった。

弱者の味方であった今堀誠二先生の厳しくかく壮絶なる生き様を終生忘れることなく、先生の御意志に添い努力する覚悟であります。どうか私達を見守って下さい。今堀先生安らかに眠り下さい。

(総合科学部情報行動基礎研究講座 天野 實)

